

投稿原稿作成の仕方

原稿用紙—ワープロ使用原稿は、A4 判に横書き 25 字×22 行 (刷り上がり 1/4 頁分) でプリントする。文字間を詰め、左右に余白を十分にとる。手書き原稿の場合は、編集委員会に事前に相談する。

原稿の 1 頁目には、次の事項のみを記入する。

論文タイトル・執筆者名 (グループの場合は、代表者の所属・連絡先と執筆者全員の氏名)・脚注として所属機関・連絡先、口頭発表した原稿はその旨を明記。

(例) 1 頁目

秩父盆地団研の歩み*
岡野久男**
*本論は、地学団体研究会第 61 回大阪総会科学運動シンポ「環境と地質学」で一部講演。
**東京支部 都立新座北高校 〒…

(例) 2 頁目以降

	はじめに		
余白	←	25 字	余白
	→		

本のおんない・読書のすすめ・花綵通信・ゆく雲にたくして・地学ハイキング北から南から・私の教材・応用地質の現場から・なかまと歩く—団研アルバム・支部報より・マイストーン のタイトルは 10 行程度でよい。連絡先は不要、所属支部と所属機関を次のように明記する。氏名 (支部、所属機関) とする。

文体等—原則として当用漢字を用いる。ただし、固有名詞や慣用語はこの限りでない。難読の地名などにはルビでふりがなをつける。貉岩 (むじないわ) とはしない。

(例) 貉岩 → ^{むじないわ} 貉岩

殿谷戸角礫岩部層 → ^{とのがいで} 殿谷戸角礫岩部層

コマ数—ひらがな・カタカナ・漢字・カッコ・句読点は全角文字、ローマ字と数字は半角文字とする。句読点は「、。」を使用し「、。」は使用しない。

単位—数量の単位は、原則として SI 単位および地球科学で慣用される単位とする。

(例) キロメートル ・ ^キ ^ロ ^メ ^ー ^ト ^ル → km

ヘクタール ・ ^ヘ ^ク ^タ ^ー ^ル → ha

柱—柱 (各頁の上部欄外の見出し) の原稿をつける。著者名と論文表題はそれぞれ 30 字以内。

見出し—大見出し～小見出しには、番号を付けずゴシック体指定とする。

大見出し：2 行どりでセンタリング

中見出し：太字体指定、左詰で改行

小見出し：太字指定で、左詰で 1 字あけ

これ以下の小見出しは、著者が必要に応じて

なお、本のおんない・読書のすすめ・花綵通信・ゆく雲にたくして・地学ハイキング北から南から・私の教材・応用地質の現場から・なかまと歩く—団研アルバム・支部報より・マイストーンの見出しは、中見出しからはじめる。

(例)

[大見出し] 2 行どり (中央寄せ)
はじめに

本論は、……

[中見出し]

三山層の特徴

三山層は、……

[小見出し]

堆積構造 三山層には、フルートマークなど……

[これ以下] (必要に応じて)

1) ……， ① ……， i) ……

図と表について

図・表の作成—原稿用紙と同じ大きさの用紙に 1 図・表を 1 頁ごとに貼り付け、余白に著者名と図・表番号・刷り上がりの大きさ (例：横幅○ cm 等) を記入する。

カラー印刷を希望する場合は、カラーと朱書きする。写真原図は原寸で 360 dpi 以上の解像度とし、拡張子 JPG にする。線画等の図表は原寸で 1200dpi 以上の解像度で PDF 形式でも可 (ただしフォント埋め込みであること)。Excel 等で作成した表は、編集段階で縦横比を変えることもあるので、元データも提出する。

図・表の大きさ—刷り上がりの大きさは著者が指定 (編集の都合上、編集委員会に変更することがある)。

原寸～70%縮小が最適。刷り上がり最大横幅は 1 段階 (84mm) あるいは 1 頁幅 (175mm)、もしくは見開き頁 (A3 判まで)。

図・表の番号—第 1 図・第 2 図…、第 1 表・第 2 表…とする。写真も図とし、他の図とともに通し番号をつける。

本文中の図表の挿入位置は、右余白を利用し朱書き

で示す。

年代表示—原則として西暦年を使用。元号は不可。ただし歴史的意味等のあるものは、下記のように併記。

(例)「慶応3(1867)年」 or 「1867(慶応3)年」とする、「今年……」, 「3年前……」は用いず、西暦年で表記する

地形図—原図としてそのまま使用する場合は次のように明示する。

(例) この地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「東京南部」を使用したものである。

印刷字体の指定—著者が赤字で指定。イタリック体：赤で1本の下線。ゴシック体：赤1本の波型下線。数字などでは上ツキ・下ツキ・大文字・小文字の指定。ギリシャ文字等で誤植しやすいものも赤字で指定したほうが良い。なお、本文中の図・表の参照位置の指示は、ゴシック体。例) 第1図は……, …… (第1表)。

引用—下記の例にならう。

(1) 本文中のもの

秋山(1994)は、……

田崎・高須(1995)によると、……

鶴浦ほか(2003)は、……

……とされている(金井2003, 2004; 東1999)。

Hirai & Kondo (2002) ……

Koizumi et al. (2000) は、……

…… (Miyagi et al. 1998)。

(2) ホームページからの引用

稲城市教育委員会(稲城市教育委員会HP)は、……

…… (稲城市教育委員会HP)。

(3) 翻訳本からの引用

コリン, 柴田訳(2009)では、……

……と述べている(コリン, 柴田訳2009)。

(4) 教科書からの引用

実教出版編(2015)では、……

……と記述している(実教出版編2015)。

引用文献リスト—末尾に「文献」として一括。著者名のA B C…順。同一著者名の場合は公表年順。年が同じものはa, bを付ける。雑誌名は、慣用的な略記に従う。Webサイト引用の場合は閲覧の年月を添える。文字サイズは、本文より1ポイント落とす。1行27文字。

英文論文の著者名の省略を示す「.」は必要ない。

引用文献のみとし、参考文献は不要。

[文献リストの例]

文 献

房総研グループ(1963) 黒滝不整合における削剥量とその意義。地質雑, 69, 88–89。

藤田至則(1973a) 新生代後期の日本列島における造構力の解析をめぐって。地球科学, 27, 245–249。

藤田至則(1973b) 日本列島の成立。築地書館, 247p。

Hujita K (1969) Tectonic development of southwest Japan in the Quaternary Period. Jour Geosci Osaka City Univ, 12, 53–70。

Ikebe N and Chiji M (1969) Neogene biostratigraphy and geochronology in Japan. Occas Pap Osaka Mus Nat Hist, 1, 25–34。

稲城市教育委員会 HP 多摩川学習支援サイト「多摩川っておもしろい」。稲城市教育委員会。
<https://city.inagi.tokyo.jp/> (2019年8月閲覧)

日本地球惑星科学連合 HP (2007)
<http://www.jpogu.org/> (2019年8月閲覧)

Ramberg H (1981) Gravity, Deformation and the Earth's Crust : In Theory, experiments and geological application. Academic Press, London, 452p..

津久井雅志・柵山雅則(1981) 大山山麓における三瓶山起源の降下軽石層の発見とその意義。地質雑, 87, 559–562。

Seely DR(1977) The significance of landward vergence and oblique structural trends on trench inner slopes. In: Talwani M and Pitman WC (eds), Island Arcs, Deep Sea Trenches and Back-Arc Basins, 187–198, Amer Geophys Union, Washington。

化石研究会 HP <http://www.kasekiken.jp/> (2019年4月閲覧)

その他

投稿する際は、原稿整理カードに必要事項を記入し、本文、刷り上がりの大きさに縮小した図・表、図表説明文の電子データを添え、編集委員会宛に電子ファイル(メール添付, CD等, またはファイル転送サービス)で提出する。電子原稿以外での投稿は原則として不可。

なお、投稿段階においての図表は、査読で読み取れば良いので、必ずしも高精細画像でなくともよい。

原稿が受理された段階で図・表等の高精細データを提出する。